

# コスモス 8月号

第69巻 第8号

◆宮柁ニカレンダー(29) 八月の歌

ふるさとは影置く紫蘇も桑の木も一様に寂し  
いぢやう  
晩夏のひかり  
歌集『多く夜の歌』

「郷国」と題する七首の二首目。ふるさと越後を訪ねた折の作品である。初出は「中部日本新聞」で、「小学同級会」の題がある。

昭和三十一年八月末。夏のおわりの光の中で紫蘇と桑の木が地に影を投げる。光に対して影は寂しい存在であり、しかも、紫蘇も桑も華やかさとは縁のない質素な植物である。ふるさとのなつかしさは、とおく寂しさを呼ぶ。

漢字の多いなかで初句と結句の「ふるさと」「ひかり」のひらがな表記がやわらかくてやさしい。

(田中愛子)